

令和3年度 第3回大阪府立泉北高等学校 学校運営協議会 議事録

- 日時：令和4年2月14日（月） ただし、書面送付により意見集約を行う
- 運営協議会委員（敬称略）
 - 菊田 久雄（大阪府立大学 工学域長）、中谷 浩治（堺市立若松台中学校校長）
 - 中村 俊一（立志館ゼミナール館長）、池内 博一（追手門学院大学 准教授）
 - 樋川 友子（泉北高校PTA会長）、榎 さゆり（泉北高校後援会 会長）
- 資料について、メールでいただいたご意見は以下のとおり（順不同）
 - 泉北高校（R03）学校経営計画・学校評価については、コロナの影響を受けて実施できなかったもの以外はおおむね目標を達成されており、安定した学校運営がなされているように思います。
 - R03年の反省の上に計画されたR04年学校経営計画・学校評価については、承認いたします。とくに、「SDGs 未来都市」である堺市の「SDGs 推進プラットフォーム」に加盟し、様々な企業・行政・団体・教育委機関との連携を進める。と追加された内容は、地域連携に重きを置き、将来の社会を担う意識を育てる教育として評価されると思います。
 - 探究の授業では上記の内容を実践に移されていて、結果内容も素晴らしく、また、その成果をもとに大学進学にも繋がっていて、さらなる探究授業の取り組みに期待されます。
 - 授業アンケートについては、全体像としては8割以上の達成率で問題はありません。ただし、個別に見た場合に何か改善点がないのかは気になると思います。
 - SSHの取り組みは、長年の実績があり、特に、泉北高校の国際・科学高校としての特性を活かした「グローバル人材の育成の継続、深化」「地域の科学教育の拠点校として、科学技術人材を育成するシステムの開発」は他校が簡単に取組めない差別化できる内容で、高く評価されます。今後もできるだけ長く採択されることを願っています。以上です。本年度もありがとうございました。
 - 昨年と今年を比べて整理され実施されるよう期待しております。新型コロナウイルスも3年めを迎えています。未だに猛威を振っている中、すでに尽力されていると思います。コロナ感染が早く終息することを願っております。
 - 1. 図書館について
図書館の年間来館者数4000名以上とありますが、地域住民などによる利用も想定されておられる場合、本学学生の学習利用の妨げにはならないのでしょうか。年間図書貸出数2000冊以上とありますが、その目標を達成するためには、貸出の見込まれる本（魅力ある本）が配架されている必要があると思います。図書館のリニューアルに伴い、どの程度蔵書数は増加していますか。
 - 2. 進路保障について
令和6年度の目標として、国公立大学合格者数30名以上、関関同立合格者数180名以上とあります。また、別添資料の「51期生大学入試結果」では、12月末現在で関関同立が37名とあります。今年度の最終見込み数として、国公立30名、関関同立180名に近い数値が出る可能性はありますか。別添資料の「51期生大学入試結果」を拝見しますと、近畿大学の数値が127名で突出していますが、これは例年通りでしょうか。これによりますと、学生が安易に合格しやすい大学を選んでしまい、学力に見合った挑戦（国公立や関関同立への挑戦）をしなくなっているように感じますがいかがでしょうか。
 - 3. いじめ防止について
いじめ発生件数0件となっており、相談など学内の支援体制がしっかりしているものと思われます。ただし、学校教育自己診断（生徒）における「相談体制」の肯定率（60数%）と照らし合わせて考えますと、3割以上の学生が相談体制を評価しているわけではないとも読み取れます。特に、潜在的ないじめの有無（クラス内の集団無視など）については、常に目を配っておく必要があると考えます。

- 国際文化科の活動報告を拝見し、活動が素晴らしいです。とくに、ゼミの活動だけでなく、クラブ活動も繋がっているところが素晴らしいです。また、探求活動を経て、その結果、進路選択や決定につながっているのは後進の励みになります。
- SSH においても、各班の研究にとどまることなく、「地域の理科教育の拠点校をめざす取り組み」もされていて、研究以外の企画運営も学んでいることは、課題解決の力になると思うので評価します。
- 中間的目標 4 - (2) 学校広報活動の充実について、貸与した1人1台端末による連絡が可能になったため、メール配信回数は27回に留まった→3年生は時期的な条件で端末の貸与が無かったことより、3年生の保護者は実感がなく、子どもとの情報共有ができていないと思う保護者がいたように思います。
- 今年度もコロナ禍で十分な活動ができていないなかでも、地域連携に重点を置き、教育活動を促進されていること、また、その活動により成果を出していることに称賛します。次年度も、引き続き、生徒が充実した学校生活を送れますようお願いしています。
- (授業アンケート等の評価について) プラスかマイナスかどちらかを決めなければならないことがしんどい人があるかもしれません。
- 本年度の取組内容及び自己評価で、英検やセファールの結果を表示する際に、各学年ごとの推移があれば先生方の取り組みがよく見えてくるような気がします。各学年ごとに何人くらい意識的に取り組んでいるのか知りたいです。
- 大学進学についても、今では様々な入試があるようなので、単純に合格者数では測れないものがあるように思います。推薦、AO、一般など入試の種類については勉強不足でわかりませんが、一般入試でどれだけ勝負できているのか気になります。また、それぞれの大学から与えられている推薦枠などにも興味があります。大学進学が何よりも優先されることではないと思いますが、きれいごとと言われても仕方ありません。たった3年間の高校生活なので、個人的にはその時しかできないことを一生懸命すればいいと思いますが、残念ながら社会の評価は結局大学進学率かなと思ってしまう報道ばかりです。活動内容は素晴らしいものばかりですが、例えば研究発表は推薦入試などを活用する場合にはどれだけ有利に働くのでしょうか。充実した取組をした生徒が第一志望の大学に進学していることを願うばかりです。取組内容によっては泉北高校ではなく他校別学科の範囲かなと感じる部分もあります。研究発表が重んじられるのは当然ですが、3年間で次の進路に進める生徒を育てていただきたいと思います。

○令和4年度学校経営計画について

すべての委員の皆さまより承認を受けた

○ 送付資料

1. 学校経営計画 (R03 評価案)
2. 学校経営計画 (R04 計画案)
3. 国際文化科課題研究 (探究) 報告
4. 授業アンケート結果 (学年ごと集計)
5. 51期生進路状況
6. SSHの活動について
7. SSH事業報告と今後の予定